

## 小野薬品工業株式会社 (B)

小野薬品工業株式会社は、1993年3月期に経常利益の過去最高値を更新する見通しであった。このため、1992年秋、佐野一夫社長は、株主への新たな利益還元を検討しなければならなくなったと考えていた。

### 概要

10

小野薬品工業は、プロスタグランジン (PG) の分野で他社をリードしていた。1974年に世界で初めてのプロスタグランジン医薬品「プロスタルモン」(注射用陣痛誘発剤) を発売して以来、次々に、PG関連の新製品を開発・発売していた。このため、小野薬品では、自社開発製品が売上高の90%以上を占めており、その自社製品の粗利益率は60%以上になっており、高い利益率を享受できるようになっていた。このため、売上高営業利益率も大手8社の平均利益率を大幅に上回っていた。さらに、1992年4月の薬価改定においても、医薬品業界平均で8.1%の引き下げとなった中で、小野薬品の自社開発医薬品の引き下げ幅はゼロであり、全体では若干のプラス改正となっていた。

1992年5月には、糖尿病性神経障害治療薬「キネダック」という新製品を発売した。この「キネダック」は小野薬品が1986年3月に製造承認申請を行っていた医薬品であった。20  
1991年9月になって、厚生省薬事審議会が審議を開始し、1991年12月に、厚生省薬事審議会の常任部会で製造承認が出された。1992年4月には、薬価収載され、1日当り852円の薬価が公示された。厚生省の患者調査では、糖尿病患者2百万人以上のうち、治療を受けている患者は約110万人存在しており、そのうち、食事療法や運動療法、経口血糖降下剤、インスリンなどによる治療を行っても神経障害に悩んでいる患者は約11万人いると推定されてきた。これに加えて、糖化ヘモグロビン値が高い値を示している患者は6万人おり、

---

このケースは、慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授鈴木貞彦が、同研究科でのクラス討議のために、公表資料に基づいて作成したものである。このケースは経営の巧拙を例示するためのものではない。(1993年8月作成)

Copyright © 1993 by Professor Sadahiko Suzuki of Graduate School of Business Administration, Keio University, Japan. No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, used in a spreadsheet, or transmitted in any form or by any means - electronic, mechanical, photocopying, recording, or otherwise - without the permission of the author. (Prepared in August 1993)